



九州ゴルフ 100 年祭 平成 25 年度 第 20 回九州ミッドシニア選手権競技 第 35 回九州グランドシニア選手権競技

競技報告 (2013/9/25-26)

写真と記事 : GUK・M. Kikutake

ミッドシニア

通算 5 オーバー 149 ストローク

大川重信 (小郡)

3 年ぶり 2 度目の優勝

ミッド (M) シニア選手権、グランド (G) シニア選手権ともに 26 日、佐賀市三瀬村の北山カントリー倶楽部 (ミッド 6478 ヤ、グランド 6102 ヤ = パー 72) で最終日の決勝ラウンドを行い、M シニアは 68 歳の大川重信 (小郡) が通算 5 オーバー、149 で 3 年ぶり 2 度目の優勝を飾った。G シニアは地元佐賀の 71 歳、四方田貞雄 (佐賀) が通算 6 オーバー、150 で初優勝した。四方田は自身、連盟主催競技初タイトルだった。

九州ゴルフ 100 年祭と銘打って行われた今大会、出場資格が 65 歳以上 (12 月末現在) の M シニアには各地区予選を通過した 75 人 (欠場 3 人) が出場した。初日は午後から断続的に雨に見舞われる悪コンディションになったが、大川はただ一人のアンダーパー、71 をマークして 2 位庄司明男

(福岡雷山、68 歳) に 2 打差をつけて単独首位に立った。50 人が決勝に進出した最終日は、北寄りの風が 9 m と強い風に悩まされたラウンドになったが、大川は 1 バーディー、3 ボギー、2 ダブルボギーと苦しみながらも 2 打差を守りきって優勝した。

その 2 打差 2 位には、この日 3 オーバー、75 の嘉陽宗賢 (オリオン嵐山、65 歳) が初日の 9 位タイから浮上した。さらに 1 打差、通算 8 オーバーの 3 位には前年優勝の真鍋高光 (大博多、65 歳)。初日 2 位の好スタートだった庄司は最終日 82 と崩れ、6 位タイだった。



「ジャパンをもう1回取りたい」大川重信

あまり「大言壮語、しないこの人の口から珍しく、「ジャパンを…」という言葉が飛び出した。一昨年の日本ミッドシニアを制し、2006 年の日本シニアとあわせ史上初めて二冠を達成した。ところが、昨年は九州無冠。日本ミッドシニア選手権でも優勝争いをしながら、最後に力尽きた。「昨年は根負けした、不本意だった」という。

そんな思いが強いだけに、この日は「気合を入れて回った」という。初日、全選手中、ただ一人アンダーパーの 71 をマークして単独首位。2 打差をつけて迎えた最終日は、時おり 9 m の風が吹きつけた。「とにかく必死だった」というラウンドは前半 2 ボギーの後、後半は 17 番まで 1 ボギー、2 ダブルボギーで、後続に 1 打差に迫られていた。しかし、ここからがこの人の底力だろう。最終 18 番はパー 4 ながら、平均スコアが 5.02 という難ホール。ピン上 8 m につけた大川は、下りスライスラインを読み切り、この日初めてのバーディー。それも、全選手中ただ一人、18 番でバーディーを奪ったのだ。

「後半は足が動かなくなった」と苦笑する大川。長い競技生活で身体はガタガタ。「だましだましのゴルフ」という面もある。しかし、日本選手権での雪辱戦にかける思いは強い。「自分のゴルフをすれば何とかイケる」。そう言う大川の口調は力強かった。

前年優勝で今年は3位の真鍋高光（2バーディー、7ボギー）風はそうは気にならなかったが、ショットがぶれて思うようなゴルフができなかった。日本選手権（シード選手）では今年こそ、優勝争いしてきたいですね。



グランドシニア

通算6オーバー 150ストローク

四方田貞雄（佐賀）

が初優勝

Gシニアは70歳以上が出場資格で、93人（欠場2人）が出場して行われた。初日は3オーバーの75で四方田や実力者の尾藤牧衛（島原、74歳）ら4人がトップに並ぶ混戦での幕開け。最終日は56人が決勝ラウンドを戦ったが、初日首位タイの中から3オーバー、75と安定したスコアをマークした四方田が抜け出し、勝利を得た。

1打差の2位は首位タイスタートだった高谷敏征（喜々津、70歳）で、通算9オーバーの3位は、この日ベストスコアの74で回った山本政実（ミッションバレー、73）で、初日19位タイからごぼう抜き。4

位タイには武田鐵雄（チサン遠賀、73歳）ら3人が入った。尾藤は84をたたいて15位。前年優勝の宮崎俊介（ジェイズ宮崎、72歳）は20位タイに終わった。

「まさか優勝できるとは…」病み上がりの四方田貞雄

「日本選手権への出場権を取るのが目標だったし、リラックスして回れた」と四方田だった。4人による首位タイで迎えた最終日最終組。インからの前半は1バーディー、2ボギー。この時点で尾藤が4連続ボギーなどで40をたたいて脱落。対象は2人。我慢比べとなった後半、今度は武田が終盤に乱れた。高谷と8番まで同スコアで並走したが、最終ホールで高谷がボギーを打ち、パーの四方田に勝利が転がり込んできた。

実は昨年春先、飲んでいる時に激しく咳き込んで、食道破裂から肺を痛め、心臓を圧迫、2か月間入院生活を送った。「もう一回、日本選手権に出たい」。今回、県予選を通過すると練習ラウンドも4回こなして身体を慣らしたが、完全ではなかった。「とにかく息が上がって苦しかった」と言う。ただ、気持ち的には「優勝を狙っていたわけでもなかったし、ショットはまずまずで、パットもうまく行った」そうだ。

その結果の、初タイトル。まだまだ身体づくりもしなければならぬのだろうが、「特段には…ゴルフで治していく」と笑う。日本ミッドシニアでは2007年の14回大会（小金井）で3位タイの実績。初めて出場する日本グランドシニアになるが、「九州のためにも頑張ってきたい」と話した。

日本選手権の出場資格はMシニア21人、Gシニア11人

日本選手権への出場資格は、日本Mシニア選手権（11月11～12日、千葉県・京葉CC）は上位18位タイまでの21人、日本Gシニア選手権が上位8位タイまでの10人と、11位タイの2人のうちの1人、計11人が獲得した。

80 歳以上のスーパーグランドシニア

80 歳の赤崎俊美（ゴールデンパーム） 77 のエージシュートで初V

18 ホール（5450 ㊦、パー72）で行われた 80 歳以上（12 月末現在）の部は 80 歳の赤崎俊美（ゴールデンパーム鹿児島・吉田）が 5 オーバー、77 とエージシュートで回り、初優勝した。

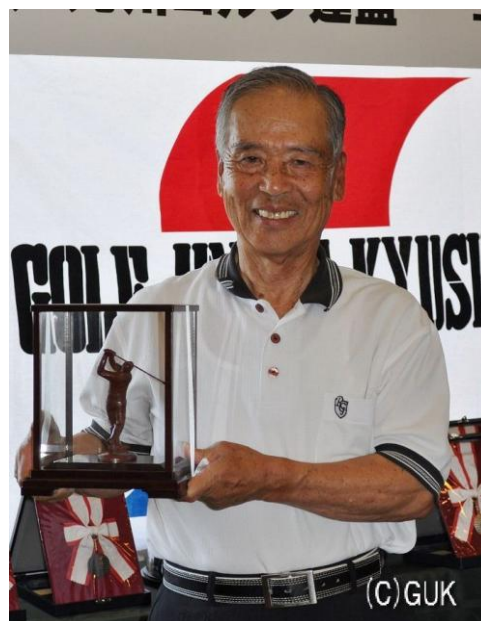
同クラス初出場の赤崎は 3 バーディー、8 ボギーと出入りの激しいゴルフだったが、2 位の大原博志（かほ、79 歳）に 1 打差をつけて栄冠を手にした。

7 人がエージシュートを達成する

“スーパー、ぶり

この試合は白石清（久山）の 90 歳を最高齢に、史上最多となる 36 人（欠場 6 人）が出演。スーパーシニアたちは文字通り “スーパーぶり、を發揮し、計 7 人がエージシューターとなった。以下にお名前を列記して敬意を表したい。

優勝した赤崎、2 位の大原のほか 3 位杉山利夫（チェリー小倉南、81 歳、スコア 80）、7 位湯上齊昭（かごしま空港 36、83 歳、スコア 82）、9 位井川仁（宮崎 G、85 歳、スコア 83）、13 位植杉乾蔵（球磨、89 歳、スコア 85）、そして白石がスコア 89 で 21 位。それぞれに記念品が贈られた。



503 回目のエージシュートの赤崎俊美

80 歳以上の部にはエージシュート 1000 回超というツワモノの植杉乾蔵がいる。この日も 85 で回って 1093 回目を達成していた。エージシュートで優勝を決めた赤崎に、何回目？と問えば、「503 回目」と返って来た。赤崎もまたツワモノだったのだ。

この日のプレーは「グリーンが速くて思うようになかった」と言うが「寄せがうまくいったし、何より同伴競技者に恵まれて楽しくリラックスして回れたのがよかった」と言う。

サラリーマン時代の 40 歳でゴルフを始めたが、定年で本格的に取り組み、60 歳でシングルに。71 歳の時、開場記念競技で 71 のスコアで回りエージシュートを達成した。以来、年間 150 ラウンドをこなすという凝りようで、エージシュートを積み重ねてきた。

ただ、年齢からくるものか、膝や腰の痛みは激しい。だから、スポーツクラブに通い、自宅でも 3 キロの鉄アレーを握って筋トレに励む。目標は「エージシュート 1000 回達成」で、「身体と相談しながらだけど、挑戦します」と話してくれた。

エージシュートの 78 で 2 位の大原博志 持ち球が低いので風はそうは気にならなかった。普段通りのゴルフを心がけたら、アプローチとパットが良かった。エージシュートは 8 回目。どれだけできるかわからないが、身体が続く限り楽しみたい。

連覇を逃したが 1093 回目のエージシュートを達成した植杉乾蔵 今日は 80 を目標にしていたけど、シャンクが出て…。ここはグリーンが速いし、難しかった。目標？ 私にとってはゴルフ場が病院。身体が動く限りは続けたい。